

「明日、母に“オハヨウ!!”と言ってみよう」

周粉面話「皇甫彩玉」2009年12月発表

昨日、水後さんに薦められ、さらに「オハヨウ、お母さん!!」への期待が膨らむ。09年<上海国際当代戯劇季>ACTの中で第一の作品として、ずっと道化座を待っていた。以前見た他の外国の演劇とは異なり、この芝居はとても生活に近く、俳優たちの意図もよく理解できた。細かい表現に至るまで活気あふれる日常生活をそのまま舞台に描き、観客を魅了した。

後にアルツハイマー病を患う祖父、中年で夫を亡くし家事に忙しい母、そしてその子供たち…多忙なサラリーマン長男洋一、やんちゃだった次男の太平、しっかり者の長女まゆみ、うっかり者の次女京子、甘えたな三女なつみ…大山家の家族は皆、生き生きとした人物たちだ。

舞台はこの家庭の最も忙しい朝から始まる。子供達は次々に起床、母明子は子供達の朝食を用意するが、それぞれ好みはまちまちで結構難しい。散歩から帰ってきた祖父も朝食に加わる。母明子は全員を送り出した後、急いで洗濯や掃除をしアルバイトに出かける。家族を守る忙しい主婦の一日はあっという間だ。その間にも電話詐欺と強引訪問販売の事件もあり、中国によくあるこれらの犯罪が日本でも蔓延していることに驚いた。犯罪に国境はないようだ。国際司法協力する映画やドラマがよくあるが。(本題からそれた…)幸いにして生き残った大山家にとって1995年の阪神・淡路大震災は忘れられない記憶だが、災害はどんな時も敗けずに頑張り抜く精神も与えてくれた。

生活は常に平穏ではない。久々の家族全員による登山旅行の時、祖父に認知症の兆が現れた。五人の孫達は発病した祖父をどうすべきか困り果て、ジャンケンで介護の順番を決め、母の負担を軽減しようとする。しかし、これを知った母は、祖父への配慮が足りないと子どもたちを叱る。以後、幼い時から祖父に甘えてきた三女なつみが介護を手伝い始める。



またたく間に秋になった。ある晩、五人の子供達は久しぶりに祖父と一緒に食事をしようと家に帰るつもりだった。母もしゃぶしゃぶなどご馳走を用意した。が、残念ながら、結局みんな仕事のために帰ることができなかった。家は



ひっそりとし、母となつみだけが祖父に付き添う。祖父はストブの辺で寝つき、とても落ち着いている……。

と、突然、“おはよう、母さん”と祖父が口を開いた。祖父の頭の中に、とてもにぎやかな以前の家族団欒の風景が蘇ったのだ……。

この劇から、“家族”の大切さを強く感じた。舞台から伝わってくるのは心のこもった家族団欒への期待だ。家族愛は言葉からも表情からも現れていた。芝居は細部に至るまでよく処理できていた。例えば、なつみが好きなパン、母がスーパーマーケットの特価品をメモする、祖父がなつみに漢字を

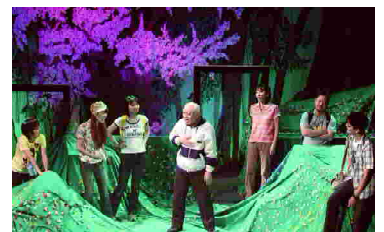


教える、医者のお白、太平が妹のリンゴを食べたこと、祖父はいつもなつみの名前を間違えること、母は忙しく弁当を用意することなどなど……何気ない細部から素晴らしい芝居を作り上げている!

更にまたこの芝居から二つの良い所を発見した。一つは中国の芝居と違って、食品はすべて本物であることだ。道化座は食品などの小道具はすべて本物を使っている。お茶、牛乳、果汁からパンを焼くことまで、ご飯、漬け物までも。これは日常生活をより真実に近く再現するためだと思う。本物を使用することで俳優は自然体でもっと大切な芝居の主旨表現に集中できる。二つ目は背景の転換方法だ。通常は家具などを移動するのだが、特に新人が操作する時は結構時間がかかる。今回道化座の手法は全く違った。緑の布を使って、家具などを覆い隠し、登山時の山林を表現した。本当に巧い! 背景の転換時間を節約するだけではなく、下に隠した家具などを巧みに利用し山の景を作り出した。本当に一石二鳥だ。これは中国の芝居ではあまり見かけない。芸術にも知恵が必要だ。



この芝居は人間の心と今の社会問題に焦点を絞っている。例えば、独居の年寄り、電話詐欺など。芝居の中で震えながらよろよろしている祖父を見て、私は数年前逝去した自分の祖父を思い出した。晩年パーキンソン病に悩んだ祖父は、私の作文を直してくれ、好きな靴を買ってくれた……老人はいつも黙々と生命の最後まで奉仕する。カラスも親への恩返しを知っているのに、人間ならばなおさらだ。高齢化は上海だけでなく全国の大きな社会問題になっている。増えている独居老人の老後生活、介護問題に政府は力を入れているが、親族の代わりにはならない。多忙なサラリーマンが年取った両親と一緒に食事をするということは、食事だけではなく両親との心身の交流、慰めでもある。古語の教えでは、「両親が健在なうちは、遠方へ行くべからず」というが、今は多くの人が故郷を離れ、異郷へ働きに行く。生計のため、彼らは多くのこと、特に家族団欒の幸せを手放さなければならない。



この芝居のシーンを見れば、多くの人は感無量で涙を流すだろう。「オハヨウ、お母さん!!」に共鳴する観衆は、もう一度自分の言動を考え直すことだろう。

感動に理屈は要らない。明日起きたら、母に「オハヨウ!!」を言ってみよう。あまり唐突にならないことを信じて……。

祝<上海国際当代戯劇季> 5周年記念 劇団道化座「オハヨウ、母さん!!」報告

今回、<上海国際当代戯劇季> 5周年記念公演に、大阪の劇団五期会とともに参加することとなった。五期会は「マイ・ガーデン（中国題：我的花園）」、道化座は「オハヨウ、母さん!!（中国題：早安，媽媽!!）」、ともに関西のオリジナル作品である。

機上からの上海は厚いスモッグですべてが霞む異様な景色。万博開催で発展に拍車を掛ける上海。今、街のあちこちで凄まじい取り壊しが進行中だ。その土煙が街全体を覆って太陽光を遮断、滞在中、日が差したのは土日の2日だけだった。

空港に着くなりいきなりのハプニング!! 五期会照明担当染川氏は道化座より一足早いANAで関空を立、JALで上海入りする道化座と東浦空港の荷物受渡場所で合流の約束だった。が、ANAとJALでは到着ターミナルが異なった!! なんと失態!! うっかりミス!! きっと心細い思いで道化座の到着を待っているにちがいない。さあ、大変!! 出迎いの上海話劇芸術センタースタッフに助けを求めて到着出口へ急ぐ。が、なんと迎いのスタッフの姿が無い!! 染川氏どころか道化座御一行が迷子状態だ。とにかくセンターに連絡を入らなくては。1階から2階、2階から1階へ何度も往復。なんとか通訳の黄棟氏と連絡をとる。出迎いは既にセンターを出立とのこと。渋滞なのか? 遅れても迎えが来るのがわかったが、安心している場合ではない。染川氏を捜すのだ!! 再びアタフタ染川氏を求めて猛ダッシュ!! 染川氏も心細いだろうが、こちらとてツツモ心細い。走りに走って上海空港の広さを体感、第2ターミナルに辿り着く。が、姿は見あたらず。魔都上海の大海原に染川氏を見失ったか!! と、その責任に苛まれ心の中で何度も「ごめんなさい!!」を繰り返していた矢先、響き渡った「パパさあ～ん!!」と暢気な一声。「染川さんだアア～。」あたり構わず染川氏確保!! と抱きついた。安堵感に腰が砕けそうな一瞬だった。さすが染川氏、下手に動かずじっと待っていてくれたのだ。久々の冷や汗ものだった。ホッ!

遅れていたセンターからの出迎えも到着し、一同無事合流。スツタモンダの末、気を取り直し空港からバスで五期会の舞台準備進む話劇芸術センターを目指す。

上海話劇芸術センター三階“沙龍劇場”。準備はどんなものかと恐る恐る覗くと、そこにはすでに五期会「マイ・ガーデン」の立派な舞台セットが建っていた。さすが上海の舞台スタッフは凄い!! こちらの要求に応えようと努力を惜しまない姿に感動する。ありがとう!! 孤軍奮闘の照明今西氏。染川氏はもちろんだが、劇場に着くなり道化座同行の檜山氏も荷物を投げ出し照明準備に加わる。



上海話劇芸術センター

今西・染川・檜山の三強体制に中国のスタッフも加わり心強い!! 演出の井之上さん、出演の宇仁菅さん、牛丸さん、八田さんたちはじめ五期会のみなさん、準備に忙しそう。照明もシユート段階まで準備が進んでいるようだ。全て順調な様子に安堵した。

12月3日4日、無事に五期会が「マイ・ガーデン」を熱演、観客の反応も上々であった。五期会のみなさん、初海外公演成功、おめでとう!! 本当によかった。

引き続き5日6日に道化座も「オハヨウ、母さん!!」を上演した。舞台での食事風景が多い作品だ。日本から炊飯器やトースターやポットを持ち込む。炊飯器を使って舞台上でご飯を炊く。鍋料理は道化座の舞台の定番、立ち上るお鍋の湯気は家族の温もりだ。今回は“牛しゃぶ”で、関西自慢の味「旭ポンズ」まで持ち込む。

観客の入りも演劇祭で最も多かったそうで両日とも満席、反応もよく、芝居半ばで大きな拍手が沸き上がった。

中国は芝居の見方が上手なのが、客席の嬉しい反応でさらに舞台は盛り上がる。

終演後、殆どの観客がそのまま残り、熱い興奮が客席から伝



わるアフタートークとなった。「思わず涙した。」「心が熱くなった」「自らの家族のことを思った。」「生きる勇気を与えてくれた。」等々、多くの観客が「感動!」と力強い言葉で感想を語ってくれた。国や人種は異なっても、市井に生きる人々の思いは変わらない。観客は皆、高揚した様子で私たちに「ありがとう!!」と声をかけて下さり、熱い思いを胸に劇場を後にされた。5周年を祝う公演は大成功だ。嬉しい!!



今回も榎榮軍氏ははじめ制作はもちろん、照明、音響、道具、小道具等々、上海話劇芸術センターの方々に懐あたたかくお迎えいただいた。今やアジアだけでなく世界に開かれた国際的な演劇祭となった<上海国際当代戯劇季>。この上海での演劇交流の発展は、演劇に心血を注ぐ上海の方々の並々ならぬ御努力のお蔭である。関西から始まったささやかな交流をここまで大きく慈しみ育てて下さった楊紹林総経理はじめ中国・上海話劇芸術センター諸氏の御尽力に、ここに謹んで心からの敬意と感謝を表します。

演劇は人々の心を豊かにします。そして、豊かな心は平和を求めます。演劇交流の輪がアジアから世界に広がり、世界が平和を希求する豊かな心で満たされることを願ってやみません。

報告／馬場晶子
写真／島田明子